

# プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

## 平成30年度プレカット部材共済会通常総会を開催

### — 瑕疵保証付き部材で安全安心の提供を —

全国住宅プレカット部材共済会は、平成30年度第1回理事会・第16回通常総会を平成30年10月4日（木）に永田町ビル4階 一般社団法人日本治山治水協会中会議室において開催しました。

総会の冒頭、原田会長から「平成29年度事業は、最少目標棟数を734棟として、平成29年8月8日にスタートし、これの達成のため、事業参加会員の皆様にご努力・ご協力をお願いすることで事業に取り組んだが、保証書発行棟数は573棟で事業を終了することになった。

最近の住宅着工戸数の動向は、年率換算値で見ると90万戸前後で推移し、住宅需要は一段落した状況になっている。このような中で、公共建築物木造化促進等の非住宅分野での一般流通材を使用した木造建築物が増加していることから、会員の皆さんにおいては、今後、需要が見込まれる非住宅分野の木造建築物用プレカット部材供給の新たな販売ツールとして活用していただけると期待している。

改めて、全会員がプレカット部材瑕疵保証事業の役割の重要性を再認識し、共済会のプレカット部材瑕疵保証事業が会員の相互扶助の精神に基づき充実しつつ、今年度においては、ぜひ目標棟数の確保が図れるよう、会員の皆様の忌憚のないご意見ご助言を頂き、平成30年度事業計画を決定していただきたく、ご審議の程をよろしく願います。」旨の挨拶がありました。

議事では、平成29年度事業報告及び収支決算報告、平成30年度事業計画（案）及び収支予算（案）が提案、承認されました。特に、30年度においては、会員の安定経営のためのリスク保全事業の一部として、29年度から新たにプレカットミス賠償責任保険制度による事業を展開し、継続して加入促進を図りつつ、その円滑な事業推進に努める。また、①共済会とプレカット協会との連携強化、②共済会会員の啓発活動の推進、③顧客への普及活動の強化を重点的に講じることといたしました。

議事終了後、プレカット部材瑕疵保証事業の協力会社であるM&Kコンサルタンツ(株)大串企画開発部長から、住宅瑕疵保険の現状とプレカット部材瑕疵保証制度について講演が行われました。その中で、2019年10月に住宅瑕疵担保履行法完全施行から10年を迎えるにあたり、国交省が今後のあり方について2018年7月より検討会を開催していることに触れ、その検討会の資料から「①新築住宅瑕疵保険の事故率と既存住宅瑕疵保険の事故率の比較②既存住宅瑕疵保険の利用現場の声」の部分の説明があり、特に②の資料から「既存住宅瑕疵保険」の利用メリットには「他社との差別化」や「トラブル防止」という声があることを挙げました。この点はプレカット部材瑕疵保証制度も同様なことではないかと提案があり、さらにプレカット瑕疵保証制度はプレカット部材の品質が高いからこそ保証を提供することができる旨のアピールをビルダーに行い、「他社との差別化」や「トラブル防止」に利用して欲しいと伝えることが重要です、と瑕疵保証制度推進のための説明がありました。なお、平成29年度からスタートしたプレカットミス賠償責任保険制度について、制度内容説明と平成29年度の保険金支払事故が3件あったことの報告があり、それぞれの支払事例についての説明と、共済会会員への更なる加入促進についての案内がありました。

# 知っておきたい構造関連・法律関係知識セミナーを開催

— プレカット協会が主催・全国から多数参加 —

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会が主催し、全国住宅プレカット部材共済会とM&Kコンサルタンツ株式会社が共催して、7月12日(木)に千代田区一ツ橋の日本教育会館において、「知っておきたい構造関連・法律関係知識セミナー」を開催しました。セミナーは、会場が満員となるほどの盛況で全国から約80名の参加者があり、内訳は会員企業と非会員企業では3割と7割の比率となり、関係業者の関心の高さを示しました。

まず、主催者として協会の下堂常務理事が開催の趣旨等のあいさつを行い、株式会社M's構造設計 代表取締役社長佐藤実様から、①「これでOK!基本を理解すると楽しい「構造計算」」と題して、また、聖橋法律事務所 弁護士・一級建築士の菅谷朋子様から、②「プレカット工場・木材販売業者が知っておくべき法律知識」と題して、さらに、M&Kコンサルタンツ株式会社 取締役企画開発部長大串豊様から、③「プレカット 瑕疵保証/プレカットミス賠償責任保険のご案内」と題して、それぞれご講演をいただきました。



セミナー会場の様子

①については、現在「構造塾(2010年木造スクールを開講、全国会員数は2018年現在1500社)」として全国で定期講座を開催している経験を踏まえて、耐震等級3級の木造住宅、木造住宅の構造安全性確認、木造住宅の架構設計、木造住宅の構造における注意点等について、主に木造住宅の耐震性能の重要性について講義をいただきました。

②については、講師が建築士の資格をお持ちのうえ、その経験から弁護士資格を取得されており、I基本的な考え方と問題意識(建築生産者に対する縦と横の法的制約) II木材供給

事業者特有の法律問題 III建築紛争の実態等について、実際の紛争事例をあげながら、業界関係者が留意すべき事項をお話いただきました。

③については、非会員企業の方に対してはもちろん、会員企業の方にも理解いただくよう、当協会が現在行っている各種保証・保険制度について詳細に講義していただきました。

最後に、参加者からアンケートにご回答をいただき、大変有意義だった、ためになった、今後もこのようなセミナーを開催してもらいたい、など大変好評な感想・結果となりました。

## 平成30年度プレカットCAD技術者研修の予定

30年度のプレカットCAD技術者研修の開催予定は下記のとおりです。受講申込みは、各コース別に11月中旬以降開始する予定です。なお、1級コースの受講資格は、既に当協会のプレカットCAD技術者2級に登録されている方といたします。

研修コース	年 月 日	会 場	定 員
2、3級コース	平成31年1月29・30日	東京：木材会館	80名
1級コース	平成31年3月6・7日	東京：木材会館	30名

# 協会会員工場基礎調査結果について（平成29年度第3回）

平成29年12月末現在で調査（工場数47）

## 1 主要構造材加工設備の保有数等

		なし	1	2	3	4台以上	計	1工場当り 平均保有数	(前年平均)
横架材 加工 ライン	工場数	5	18	14	5	5	47		
	延台数	0	18	28	15	37	98	2.09	(1.50)
	うち金物対応 工場率(%)	0	72	71	80	100	68		
柱 加工 ライン	工場数	4	21	16	2	4	47		
	延台数	0	21	32	6	28	87	1.85	(1.48)
	うち金物対応 工場率(%)	0	57	88	100	75	66		
複合 ライン	工場数	36	11	0	0	0	47		
	延台数	0	10	0	0	0	10	0.21	(0.21)
	うち金物対応 工場率(%)	0	91	0	0	0	21		
ロボ ット	工場数	32	12	3	0	0	47		
	延台数	0	12	6	0	0	18	0.38	(0.43)
合計（延台数）		0	61	66	21	65	213		

## 2 羽柄材加工設備等の導入状況

		保有台数別工場数					導入を 予定	導入を 検討中	予定 なし	合計
		1台	2台	3台	4台以上	計				
羽柄材 加工 設備	工場数	18	17	5	5	45	0	0	2	47
	割合(%)	38.3	36.2	10.6	10.6	95.7	0	0	4.3	100
	(前年割合(%))	(45.2)	(35.7)	(11.9)	(7.1)	(100)	(0)	(0)	(0)	(100)
パネル 加工 設備	工場数	19	11	5	4	39	1	0	7	47
	割合(%)	40.4	23.4	10.6	8.5	83.0	2.1	0	14.9	100
	(前年割合(%))	(50.0)	(19.0)	(9.5)	(2.4)	(81.0)	(0)	(0)	(19.0)	(100)
大断面 加工 設備	工場数	13	3	0	0	16	1	3	27	47
	割合(%)	27.7	6.4	0	0	34.1	2.1	6.4	57.4	100
	(前年割合(%))	(23.8)	(2.4)	(0)	(0)	(26.2)	(2.4)	(11.9)	(59.5)	(100)

### ◇簡単なコメント

- 1工場当たりの各加工ラインの数を前回調査時（平成28年12月）と比べると、今回は2～3社の大規模工場が調査にご協力いただいたこともあり、横架材ライン、柱加工ラインではともに増加して、ロボットにおいては逆に減少しています。これは、最近の横架材加工ライン等でも多様な部材加工が可能となってきたことから、工場の生産効率を高めるため、従来からの既存設備が見直されつつあることも一因とみられます。
- 2 羽柄材加工設備は、2社を除き調査対象工場で設置されており、また、パネル加工設備も前年同様8割以上の工場で設置されています。既に、これらはプレカット工場にとってスタンダードな設備といえるでしょう。
- 3 一方、前々回から調査を始めた大断面加工設備は、1/3の工場で設置され前年に比べて1割近くの伸びとなっています。今後も、導入を検討されている工場も見られ、新たな需要分野である非住宅木造建築物に対応するため、導入が促進されるものと推測されます。

# プレカッタ業況調査 (平成30年8月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカッタ協会調べ (回答率: 47 %)

設 問	回答比率 (%)			DI	前回DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	16	58	26	-10	+41
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	42	52	6	+36	+9
2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,000円(対前回調査±0円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	3	94	3	±0	+3
3-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	3	97	0	+3	-3
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	16	81	3	+13	+3
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	10	77	13	-3	-12
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	6	71	23	-17	+8
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	19	77	3	+16	-6

\*DI=(1)の%- (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

\*前回調査: 平成30年5月

## ◇簡単なコメント

8月の各設問のDIをみると、受注額については、悪化の会員が好転を上回り、逆に今後については好転の予想が大きく上回っている。収益についても、悪化が好転を上回っていて、現状は厳しい状況のようである。後は逆に好転の予想が上回っている。加工単価については大半の会員が変わらずの状況であり、3ヵ月後についてもほぼ変動がないと予想している。また、資材の入手状況は、ほぼ変わらずが大半である中、少数であるが現状容易で先行き困難な予想となっている。今後とも、引き続き受注額と収益が改善されることを期待したい。

- 1 受注額のDIは-10で前回調査時(平成30年5月期)に比べて、悪化の現状にあるようで、新設住宅着工戸数の動向若しくは天候不順や災害等を反映しているものと思われる。また、3ヶ月後の予測のDIは+36で改善の予想が大きく上回っている。今後とも、予想を上回るような業況の改善と活性化を期待したい。
- 2 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは±0と大半の会員は変わらずの状況となっている。平均総加工単価も6,000円と3ヵ月前と比べて変わらずとなっている。3ヵ月後の製品加工単価のDIは+3であるが、加工単価の変動はそれほどない現状にあるといえる。
- 3 資材入手状況のDIは+13で改善してきている。3ヵ月後の予測のDIは-3であり、大半の会員は変化なしだが、後はいくらかの悪化と見通している。
- 4 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは-17と受注額同様悪化の傾向がみられている。前回調査時の3ヶ月後の収益予測が-6であった結果が数字に反映されている。さらに、3ヶ月後の収益予測は+16と、反動ともいえる改善の先行き見通しとなっている。